

# 恒久的歩行者専用空間の持続的マネジメントに関する研究

ー旭川市・平和通買物公園のケーススタディー

Sustainable Management for Permanent Pedestrianized Space

-Case Study of Heiwa Street in Asahikawa City-

学籍番号 47106770

氏 名 三浦 詩乃 (Miura, Shino)

指導教員 出口 敦 教授

## 1. はじめに

### 1.1 背景

1960年代以降、モータリゼーション進行に伴う都市部の自動車交通依存を改善するため各国の中心市街地で車道を恒久的(毎日・終日)歩行者専用空間とする整備が実現した。1972年に完成し国内外の先進的なモデルとされてきた歩行者専用空間として、日本・旭川市、ドイツ・ミュンヘン市、そしてブラジル・クリチバ市の空間が現存する。近年、中心市街地の衰退や高齢社会の到来に伴い、歩行者専用空間は都心における徒歩による回遊性や滞在を支える役割を担うために再び見直されている。しかしながら、その存在意義や長期的に社会状況の変化に対応するためのマネジメント手法は十分に議論されていない。

### 1.2 目的

本研究では旭川市・平和通買物公園を対象に、官民による長期マネジメント(買物公園周辺のマネジメント、都市・交通計画)の変遷をまとめ、いかに社会状況に対応してきたか考察する。さらにそのマネジメントの結果としての、空間の変容過程、そして現状の空間構成や利用のされ方、課題を把握する。

買物公園の分析を基に、一般に恒久的歩行者専用空間が「社会状況の変化に適応し長期的に利活用されるために必要なマネジメント」を持続

的マネジメントとし、その満たすべき条件について分析する。

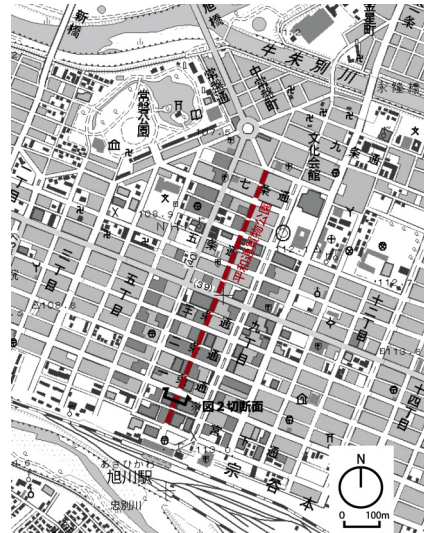


図1：旭川市・平和通買物公園(全長1.1km)周辺地図<sup>1)</sup>

### 1.3 方法

文献調査、ヒアリング、空間調査、アンケートに基づき長期マネジメントと空間変容を時系列に整理するとともに、現状の歩行者専用空間の特徴や問題点を把握する。そこから、買物公園型のマネジメントの特徴と恒久的歩行者専用空間の持続的マネジメントの条件を考察する。

### 1.4 既往研究

恒久的歩行者専用空間の長期マネジメントに関する研究はみられない。買物公園も整備当時や現状の研究は多数存在するが変遷研究は少ない。変遷研究の『旭川市平和通り買物公園の成り立ちに関する研究』(石脇・中野ら、2011)は

中心市街地の衰退原因の抽出が目的で、恒久的歩行者専用空間の持続的マネジメントの条件を明らかにする本研究の目的と異なる。

## 2. 買物公園の概要と特徴

### 2.1 買物公園の概要

1972年国内初の恒久的歩行者専用空間（道路法の‘歩行者専用道路’）として第一期整備が完成した。開設理念<sup>2)</sup>は①都心機能を担う②市民のための広場・人間性のある道路で、③市民参画のプロセスを経て④時代変化に対応する維持・更新を行うこととしていた。開設後通行量増加、にぎわいが生まれ、国の街路整備及び商業近代化のモデルケースとされたが、近年は通行量が減少、空き店舗も増加する傾向にある。

### 2.2 他の歩行者専用空間との比較

国内では中心市街地メインストリートの恒久的歩行者専用空間化の希少な事例である<sup>注1</sup>。形状は、都市の基盤の目構造という類似性から、第一期整備にてアメリカ型の整備手法（フレスノモール）・デザイン（ニコレットモール）を参考にした。世界的に70年代以降の歩行者専用空間は公共交通網整備とセットで計画されるが買物公園は商業活性化のための環境整備にとどまった。

## 3. マネジメントの変遷と空間の変容

表1：マネジメントの変遷と空間の変容（1970～2003年）

		①買物公園のモデルケース化と 郊外拠点開発期（1970～80）	②買物公園の維持管理問題 市のドーナツ化進行（1980～86）	③買物公園再整備の検討 と郊外重点市政（1986～97）	④買物公園再整備期、商店街・市 の急激な財政悪化（1997～03）	⑤買物公園再ソフト事業強化、 公共交通・コンパクトシティ政策 （2003～11）
エリアマネジメント 【主体】		【商店街】維持活用マネジメント試行 【大型店】簡易路面整備	【商店街】維持活用問題顕在化 【市】簡易路面整備	【商店街】 問題分析・リニューアル検討	【商店街・市】歩行者専用空間 再整備を呼び水とした維持管理、 沿道機能問題の解決への試み	【商店街・市・TMO】 新規歩行者専用空間・ 沿道建築物活用強化
特徴		維持管理方法確立で手一杯で 第二期造成へ余裕がなく、資金力 のある大型店独自の整備が進む。	維持管理ルールのゆるさから ファニチャー増加・店舗内容 のあふれだし。景観混乱	新旧のアイデアが融合した 新歩行者専用空間案と沿道建築物 のデザインルール完成	基本計画書と異なる実施設計に 市民・商店主の反対。再整備を 呼び水とした問題解決を狙い強行。	従来の維持管理問題の解決に よるコスト削減と新たな問題。 沿道機能マネジメント難航
市広域計画		都心・郊外の双開発	既存計画の継続	郊外重点市政と北彩都計画決定	インフラ網の完成と 維持管理政策への転換	人の活動のドーナツ化緩和と （公共交通・郊外SC抑制）
特徴		交通計画：抜本的なモータリゼーション 緩和政策とらず。買物公園の経験を活かし 歩行者専用空間の断片的挿入にとどまる。	ドーナツ化の進行	郊外重点市政の流れを国鉄 民営化に対応する駅周辺開発計画 （＝北彩都計画）が変わる。 企業努力によるバス利用率改善	既存都心・郊外地域への政策 均等化。モータリゼーション・ ドーナツ化の市都市構造に フィットする郊外大型SC急増	居住人口分布のコンパクト化 よりも、既存の居住を拠点とし 活動範囲の郊外への偏り 是正を目指す
影響した社会状況		【建設省・中小企業庁】買物公園政策 オイルショック	【通産省】 新規大型店抑制政策	旭川空港ジェット期就航 バブル景気と崩壊 五十嵐前市長の国政参加	大店立地法、三位一体の改革 による地方交付税削減	都市再生特別措置法 リーマンショック
空間	必要活動	大規模店集積			大規模店流出・破綻、中小店舗の最寄り品店減少	
	任意活動	段差解消・植栽の成長			デザイン案 変更	にぎわい創出試行
	社会活動	凹凸のあるスカイライン・駐車場の景観・アーケード老朽化・ファニチャー過多				自転車放置／空き店舗増加
	言論・表現	大きい施設帯・植栽の成長			緑陰・喫茶店減少	オープンカフェ試行 屋内待合い（公開空地）
	アクセス	バス利用率高い			駐車場問題	屋内展示型
	任意活動	屋台・中規模イベント開催				自転車アクセス 放置自転車問題
					大規模イベント・市場	

凡例 ■ 利用度 / 売上ピーク期 ■ 改善項目 □ 転換点

買物公園のマネジメントと空間変容を時系列にまとめると、表1に示す5つの期間に区分される。

### 3.1 社会状況の変化への対応

買物公園は第一期を呼び水にした第二期整備として、沿道店舗の再開発と、二階回廊の設置による交差点の分断解消及びアーケード効果を想定していた。そのため、①-②期では買物公園周辺のマネジメントは「第二期整備への合意形成」と「既存歩行者専用空間の維持管理」を柱に進められた。その間に、想定した第二期案を70年代以降のオイルショックや出生率低下に対応するように転換する必要性、そして、10年で蓄積した維持管理負担や中小商店の意欲低下という長期マネジメントを進める上での障害が生じた。商店街を中心に、それらの課題解決を目指したのが③期である。マネジメント体制を含む問題分析を基に、空間の再整備を検討し、新旧デザインの融合した基本計画を完成した。しかし、整備期にあたる④期にて官民とも財政的打撃を受け、市民公開した基本計画案よりも大幅に簡素な空間が完成した。

その間、広域計画は1965年のマスタープランを基に②-④期で郊外開発を続けた。買物公園を対・車社会の計画としつつ、広域計画では緩和

策を行わず、市域全体のモータリゼーション・ドー  
ナツ化が進行し、買物公園は④期の大店立地法  
の影響を受け、車のアクセスも増加した。

3.2 空間の変容過程

店舗種類・断面構成等の空間変容を文献調  
査・ヒアリングから把握した。街路空間に関する  
既往研究<sup>3)~5)</sup>より、表 2 の項目を利用される歩  
行者専用空間が担うべき活動として、各項目  
の観点から買物公園の空間変容を検証した。

表 2：利用される歩行者専用空間が担う活動と判断要因

利用される歩行者 専用空間が担う活動	活動を担えるかの判断要因
①'必要活動'	沿道建築物の入居テナントの多様性
②'任意活動' (景観・回遊性)	街路、沿道建築物のハード設備
③'社会活動' (滞留可能性)	沿道建築物の入居テナント（喫茶店等） ファニチャー・植栽等
④言論・表現活動	パフォーマンス・デモの開催可能性
⑤アクセス	アクセス手段
⑥ハレの活動	大型イベント、市場の開催可能性

(1)言論・表現活動の維持、ハレの活動・回遊  
性を向上、(2)社会活動と良好な景観のもたら  
す任意活動の将来的な向上可能性をもたせる  
が(3)必要活動・アクセスについては悪化するよ  
うな長期マネジメントであったといえる(表1)。

3.3 買物公園型の長期マネジメント

買物公園では周辺マネジメントの比重が広域  
計画よりも高かったことが大きな特徴である。

周辺マネジメントにおいては、経済状況や立地  
条件の異なる沿道商店全体の協力が難しく「街  
路空間に集中的な維持・更新・活用を行うことで、  
沿道商店街の協力体制と新陳代謝をゆるく誘導  
する」方法をとった。

そのため街路空間について議論がつくされ、社  
会状況変化に適応したコンセプト転換と長期マ  
ネジメントしやすい空間へ改善したと考えられる。  
維持管理費用について減少傾向で、官民で民  
の負担割合が大きくなっていることがヒアリングよ  
り明らかである。この方法の問題点としては、  
(1)誘導の可否は街路空間の質や利用度に左右

される(2)沿道機能改善がなされてはじめて、街路  
デザインはポテンシャルを発揮できるが買物公園  
のように沿道改善が「ゆるく」実施されると効力不  
足となる(3)関係者の意識変革を目指すために、  
歴史性を蓄積するよりも、従来のコンセプトをクリ  
アランスする変革的なデザインが選ばれる  
という 3 点が挙げられる。

4. 買物公園の現状と課題

長期マネジメントの結果としての、現状の空間構  
成と来訪者の観点からの評価、さらに現在のマネ  
ジメント体制のまとめをもとに、買物公園の今後の  
方向性について考察する。

4.1 空間構成

街路は施設帯がクロソイド曲線を描くシークエン  
ス変化を目指した空間から、再整備で道路の直  
線形を活かした見通しのよい並木街路へと変更  
された。現状空間への考察を図2にまとめる。

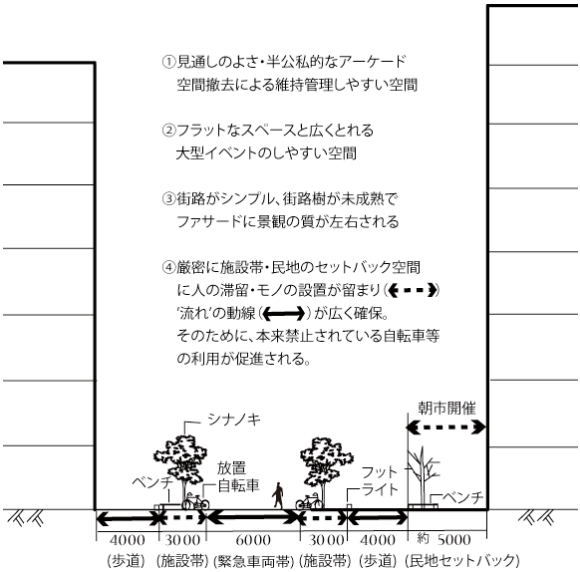


図 2：現状の歩行者専用空間の特徴（切断面は図 1 に記載）  
歩道部分にはロードヒーティングを導入し冬季の  
回遊性が改善した。広域的には歩行者圏の拡大  
はなく街区全体の回遊性確保は不十分である。

4.2 来訪者の観点からの利用方法と改善点

空間調査で把握できない来訪者の観点からの  
利用方法と改善点をアンケート(n=110)で調査し

た。分析より、散策空間としての魅力から来訪する近隣居住者の存在や、他の商店街よりも「イベント」、「街路の景観」、「店から店への移動のしやすさ」を評価する人が多いことから、歩行者専用空間化で実現する事柄が、買物公園の良い点とされている。しかし、中心市街地の人口減少と長期マネジメントが不十分な店舗内容・駐車場問題が利用頻度を低めている。車よりも自転車及び公共交通ユーザー（中高生・高齢者など）の来訪しやすい空間である。街路空間は常時の多様な利活用が期待されている。

### 4.3 現在のマネジメント体制

ヒアリング・資料調査より現在のマネジメントの体制について図 3 にまとめた。公民学・市の広域計画との連携が特徴である。ハード整備に関する窓口や市民や商店主の意見の公開の場を設けることで市民参画機能を強化できる可能性があるだろう。商店街・TMO で縦割りの事業展開や世代間の理解の難しさなどの問題ももつ。

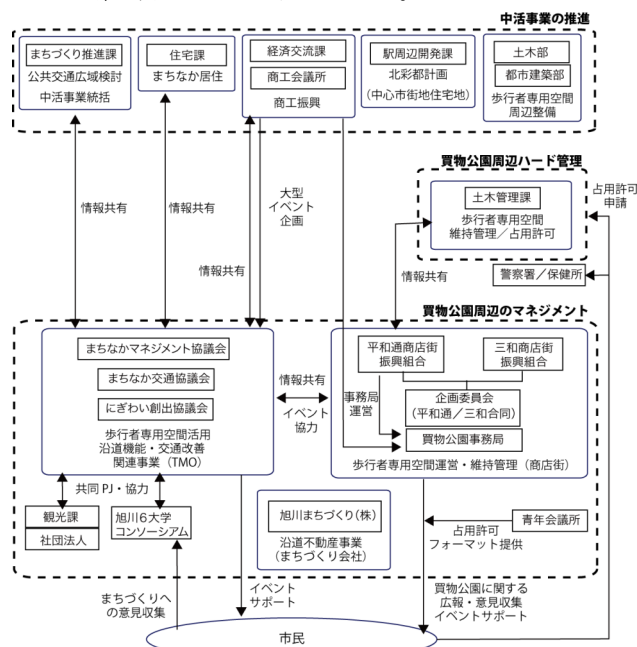


図 3：現在のマネジメント組織体制

マネジメントは「旭川市中心市街地活性化基本計画」の基本方針を共有し進めている。これまで不十分だった沿道機能・アクセスについて、重点

的に取り組む事業も多い。

### 4.4 今後の方向性と課題

再整備により維持管理問題は緩和され、街路景観、ハレの空間創出が来訪者に評価されている。一方、再整備がめざした沿道機能向上の誘発は進まず、南北格差が拡大し、このままでは現行歩行者専用空間の短縮の恐れがある状況である。空間の維持には中活事業が目指す沿道機能・アクセス改善が不可欠であるといえる。

### 5. おわりに

長期マネジメントにより、買物公園は低成長・少子社会に対応するデザインへの転換と一年を通じた回遊性確保を実現した。しかし、現状では沿道機能・アクセスの問題が、来訪者の偏りと減少を生んでいる。問題解決とともに、滞在性を向上することで、多様な市民を受け入れる‘市民のための広場’としての機能を回復すべきである。

以上、買物公園のケーススタディから、

- (1)広域計画：歩行者専用空間を核に計画構築する。アクセス向上により、利用度維持と立地条件は正による沿道マネジメント成功につなげる。
  - (2)周辺マネジメント：社会状況への対応や公共空間を大きく変える可能性をもつ更新は、官主導で市民や専門家を交え、コンセプトを明確化、具体的プロセスを共有する。維持管理は官民連携で対応する。
  - (3)利活用：「常時の滞在性と回遊性」を活かし、同時多発的に、多様な都市活動を実現する。
- の3点を恒久的歩行者専用空間の持続的マネジメントの条件とする。

注

注1 半屋内型の全蓋式アーケード商店街とは区別する

参考文献・URL

- 1) 国土地理院2万5千分1地図情報閲覧サービスより作成  
<http://watchizu.gsi.go.jp/maphistory.html> last view 2011/07/28
- 2) 五十嵐広三、高橋芳郎、人間都市復権—都市新時代を先導する旭川方式、大成出版社、1973 等の五十嵐氏著書より
- 3) Paulhans Peters、人間のための都市、鹿島出版会、1978
- 4) Jan Gehl、建築のあいだのアクティビティ、鹿島出版会、2011
- 5) 材野博司、庭園から都市へ—シークエンスの日本、鹿島出版会、1997